

## 北原白秋作詞による歯学，医学の歌<sup>\*1</sup>

齊 藤 力<sup>\*2</sup>

**要旨：**北原白秋は詩人・歌人で、童謡、歌曲、器楽曲、合唱曲、管弦楽曲などの作詞を多数行ったことで、あまりにも高名であるが、校歌、団歌、社歌、市町村歌、地方民謡・音頭、軍歌なども数多くつくっていたことは余り知られていない。これらの中に歯学、医学に関連する学校の校歌、および団歌などをいくつかみることができる。そこで、これらの歌に関して調査するとともに、その歌詞について若干の考察を行った。

北原白秋作詞による歯学、医学関係の歌にみられる主な共通語句は「国手」、「醫」、「窮」、「濟」、「仁」などであった。これらの歌詞は北原白秋の医学、医療に対する考え方、すなわち医の社会性、平等性、奉仕の精神の重要性、愛の心の必要性などを表現しているものと思われた。

**Key words：**北原白秋、校歌、歯学、医学

### 緒 言

北原白秋（明治18年～昭和17年）は福岡県柳川生まれの詩人・歌人で、童謡、歌曲、器楽曲、合唱曲、管弦楽曲などの作詞を多数行ったことで、あまりにも高名であるが、校歌、団歌、社歌、市町村歌、地方民謡・音頭、軍歌なども数多くつくっていたことは余り知られていない<sup>1-13</sup>。また北原白秋は歯学、医学に関連する学校の校歌、および団歌などもいくつか作詞している。そこで、これらの歌について調査するとともに、歌詞について若干の考察を行った。

### 北原白秋作詞の歯学，医学の歌について

渉猟しえた歯学、歯科に関連する歌は東京歯科医学専門学校校歌「校旗は燦たり」（山田耕筰作曲）<sup>14-18</sup>、大阪歯科医学専門学校校歌（北里 蘭作

詞・北原白秋補詩，山田耕筰作曲）<sup>11</sup>、九州大学医学部歯科口腔外科学教室歌（山田耕筰作曲）<sup>2</sup>、および福岡県歯科医師会歌「咲けよ我等が歯科医学」（瀧田卯夫作曲）<sup>6</sup>などである。この他、小林商店（現ライオン（株））の依頼により制作した「歯牙保健の歌」（藤井清水作曲）<sup>21,22</sup>などがある。また記録<sup>11</sup>には「児童虫歯予防会の歌」が存在するようであるが、この歌の詳細は不明である。なお医学、医科に関連する歌には東京鉄道病院の歌「椎の木」の歌（山田耕筰作曲）<sup>3</sup>、熊本医科大学予科校歌「山は大阿蘇」（山田耕筰作曲）<sup>3</sup>、および九州医学専門学校校歌「近代の医学起これり」（小松耕輔作曲）<sup>6</sup>などがある。なお、これらの歌詞については資料によってそれぞれ異同があったが、岩波書店刊 白秋全集（1987年）<sup>1-7</sup>を基準とした。しかし同全集に存在しない歌詩については各組織体が発刊した資料を参考とした。なお歌詞については古い漢字で、その文字が常用漢字表に含まれる場合は、常用漢字に替えた。

<sup>\*1</sup> Dental & Medical Songs by Hakushu Kitahara

<sup>\*2</sup> Chikara SAITO, The Second Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Tokyo Dental College  
東京歯科大学口腔外科学第II講座

## 1) 東京歯科大学校歌（山田耕筰作曲）について

### (1) 経緯

a. 作詞 大正15年1月、東京歯科医学専門学校は正式に北原白秋に校歌の作詞を依頼したが、なかなか完成しなかった。約1年半を経過した昭和2年5月4日、しびれをきらした学生会は委員総会で校歌・校旗制定を熱望する動議を提出し、年度予算の1割にあたる555円89銭をこの運動の促進に提供することを満場一致で可決した。この運動の先頭に立ったのは最終学年生（昭和3年3月卒業）であった。学生委員の情熱にほだされた学校は、棚上げになっている作詞を督促すべく、5月6日、講師の風間又四郎と4年生総代4名一行に大森の北原邸を訪問させた。玄関には面会謝絶の貼り紙があったが、おそろおそろ面会を申し出ると、白秋は快く応じ、一行の熱意にほだされて“6月末までにはきっと完成する”と約束してくれた。しかし、その後も白秋は多忙をきわめ、約束の期日になっても完成しないばかりか、見通しの立たない状況に追い込まれていた。そこで血脇校長をはじめ全校の教職員、学生約600名は白秋にあてて各自1枚ずつ、作詞を促す葉書をしたためた。続々と届く葉書に感激した白秋は9月20日の完成を約束したが、この日も作詞はならず、ついに9月23日、斎藤久助教授、風間又四郎講師が北原邸を訪問した。白秋は葉書を座右に置いて精進していたが、稿を重ねること数十回、いくら推敲しても意に満たないという。しかし9月27日夜、白秋は詩興に乗じていっきに校歌を完成した。翌28日、作詞完了の報を受け取った高津 式<sup>#1</sup>は、ただちに白秋を訪問、詩稿を手にとり帰校した。このときの校歌は“TDCの校旗の下に聚れひとしく”というものである。これは各教室の黒板にいっせいに校歌として書き出された。一方、白秋は詩稿を手渡したものの、どうしても満足できず、29日早朝から再び作詞にとりかかり、午後1時、現在の校歌「校旗は燦たり」を完成させた。午後4時、連絡を受けた福島秀策教授と風間又四郎講師は4年生総代4名とともに北原邸を訪問した。北原白秋は新しい歌詞を手渡すと同時に、それまでの失敗作を披露した。肩の荷をおろした白秋は一行と

<sup>#1</sup> 高津 式：東京歯科医学専門学校同窓（推薦会員）、北原白秋の影響を受け「白光」を創刊した人。

ともに祝杯をあげ、夜半まで歓待した。作詞を依頼したのは大正15年1月1日、これを受けとったのが昭和2年2月29日、合計21カ月を要した。

b. 作曲 昭和2年9月30日、高津 式および日本交響楽協会の牧野氏の斡旋によって山田耕筰を訪問、作曲を依頼した。山田耕筰も流行作曲家、北原白秋と同様、催促をしないといつできあがるかわからないため、数日後、意を決した高津と学生総代4名は銀座の事務所を訪問した。耕筰は一同を歓待し、メートルをあげていたが、にわかには思い立って即席で譜面を書きあげた。これには一同、仰天した。10月7日には最終的な譜面になおして完成した。実に1週間である。山田耕筰は後に、どだい無理な注文であったと述懐している。校歌・校旗発表式は昭和2年11月1日、北原白秋、山田耕筰両氏を招いて挙行された。（血脇守之助傳<sup>16)</sup>、東京歯科大学百年史<sup>17)</sup>より抜粋）

### (2) 歌詞

「校旗は燦たり」東京歯科医学専門学校校歌（昭和2年9月29日）<sup>5)</sup>

1. 校旗は燦（さん）たり、風ひるがへれり、  
我等が志望は炎と騰（あが）れり、  
起て、起て、今こそ我が師に見（まみ）えむ<sup>#2</sup>。

醫はこれ済生、ひとへに仁なり、  
国手の精神、窮理の治法（ちはう）、  
拳（こぞり）て磨かむ。一未来は響けり。  
T. D. C T. D. C フレーフレー  
T. D. C フレー<sup>#3</sup>

2. 校旗は燦たり、風ひるがへれり、  
私学の苦節は厳たり、徹（とほ）れり、  
見よ見よ、今こそ我が師を讃へむ。  
醫はこれ済生、ひとへに仁なり、  
帝都の我が歯科（しくわ）、巍々（ぎぎ）  
たる我が校<sup>#4</sup>、  
秋（とき）なり叫ばむ。一光は来れり。  
T. D. C T. D. C フレーフレー

<sup>#2</sup> 我が師に見えむ：北原白秋自筆の校歌歌詞および入学式で配布するパンフレットのみが「我が師と見えむ」であるが、歯科学報33巻(1928年)<sup>15)</sup>に記載された校歌歌詞、血脇守之助傳、東京歯科大学百年史「校旗は燦たり」、北原白秋全集(1987年)、および東京歯科大学校歌楽譜・歌詞の正当性(1998年)<sup>18)</sup>、54頁の校歌歌詞決定のための試案などは全て「我が師に見えむ」である。

<sup>#3</sup> フレー：歯科学報33巻<sup>15)</sup>では「フレ！」となっている。

T. D. C フレー

3. 校旗は燦たり, 風ひるがへれり,  
父なり, 友なり, 全き家なり,  
来(こ)よ来(こ)よ, 今こそ我が師を繞  
(めぐ)らむ.

醫はこれ済生, ひとへに仁なり,  
感謝の氾濫, 英氣のとどろき,  
日に夜に祈らむ. 一人なり道なり

T. D. C T. D. C フレーフレー

T. D. C フレー

4. 校旗は燦たり, 風ひるがへれり<sup>#5</sup>,  
水道橋畔(すいどうけうはん), 日は照りわ  
たれり,  
起て, 起て, 今こそ我が師と護らむ,  
醫はこれ済生, ひとへに仁なり,  
無限のこの道, かなたの蒼空,  
拳(こぞ)りて仰がむ, 飛躍の朝なり.

T. D. C T. D. C フレーフレー

T. D. C フレー

## 2) 大阪歯科大学学歌(校歌)(山田耕筰作曲) について

### (1) 経緯

大正13年9月に編集部と総務部の共同提唱のもとに校歌の募集広告を行ったが, その反応や結果は不明であった. その後の昭和3年頃, 生野より牧野への校舎移転が決まった当時から再度校歌選定の声がおこり, 北原白秋に作詞を, 山田耕筰に作曲を依頼し, 大阪歯科医学専門学校付属医院落成式の席上で音楽部とグリーンクラブの学生部員の合唱により初めて披露された(「大阪歯科大学史

<sup>#4</sup> 巍々たる我が校: 北原白秋自筆額の校歌歌詞, 東京歯科大学校歌楽譜・歌詞の正当性についての調査報告書(1992~1997)<sup>18</sup>, および北原白秋全集<sup>9</sup>は「巍々たる我が校」で, 他の資料は全て「巍々たる我が校」であった. 巍々と魏々とは同音同義語であるが, 大辞林によれば, 高く大きいさま, 厳かで威厳のあるさまの意である. 広辞林によれば「魏」は「まるく盛り上がって高い. 高大な」の意であり, 巍は「山がむっくりと, 丸く盛り上がってそびえるさま」と記述されている.

<sup>#5</sup> 風ひるがへれり: 歯科学報33巻(1928年)<sup>15</sup>記載の歌詞の4番が「風ひるがへり」となっているが, 北原白秋自筆の校歌歌詞<sup>17</sup>, 血脇守之助傳<sup>16</sup>, 東京歯科大学百年史「校旗は燦たり」<sup>17</sup>, 岩波書店刊 北原白秋全集(1987年)<sup>9</sup>および最近の東京歯科大学入学式の出席者に配布されるパンフレット(平成9, 10, 11年度)などは全て「風ひるがへれり」であり, 歯科学報33巻(1928年)<sup>15</sup>は誤植と思われる.

(一) ]<sup>19</sup>より). また岩波書店刊 白秋全集31巻<sup>1</sup>, および大阪歯科大学史(一)(1981年)<sup>19</sup>によれば北原白秋作詞となっているが, 社団法人日本楽劇協会編, この道(1987年)<sup>8</sup>では北里 蘭作詞, 北原白秋補詩と記述されている.

### (2) 歌詞

大阪歯科醫學専門學校學歌(昭和10年10月27日)<sup>11</sup>

#### 1. 清澄

雲に映(うつ)る緑,  
輝け, 我が丘,  
正に道あり,  
医はこれ済民,  
馨(かを)れよこの徳,  
松籟(しょうらい)常あり,  
白堊の学塔<sup>#6</sup>.

O. D. C. O. D. C. フレー<sup>#7</sup>

#### 2. 黎明

星に學ぶ真(まこと),  
開けよこの窓,  
我等が友あり,  
叡智は徹(とお)らむ,  
窮(きわ)めよ, かの空,  
連峰眸(め)にあり,  
国手の學塔.

O. D. C. O. D. C. フレー

#### 3. 澆刺(はつらつ)

土に躍る力,  
衿(ほこ)れよ新人,  
志気はあがれり,  
摂河の平野と  
朗(ほが)らよこの胸,  
臨むに淀あり,  
無双の学塔.

O. D. C. O. D. C. フレー

<sup>#6</sup> 白堊の学塔: 岩波書店刊 北原白秋全集<sup>11</sup>によった. なお大阪歯科大学史(一)(1981年)<sup>19</sup>の2頁では「白堊の学塔」となっており, 同本の193頁では「白麗の学塔」となっている.

<sup>#7</sup> O. D. C. O. D. C. フレー: 岩波書店刊 北原白秋全集<sup>19</sup>によった. 大阪歯科大学史(一)(1981年)<sup>19</sup>2頁では「ODU ODU フレー」となっており, 同本の193頁では読点はなく「ODC ODC ODC フレー」となっている.

### 3) 九州大学医学部歯科口腔外科教室歌 (山田耕筰作曲) について

#### (1) 経緯

九州大学歯学部口腔外科学教室が九州大学医学部歯科口腔外科時代(大正11年6月～昭和42年5月)に、毎年医局対抗の運動会が開催されていたが、当時、教室歌や応援歌がなく雰囲気を盛り上げるのに不自由していた。その頃、北原白秋の甥にあたる歯科医師の江崎敏男(白秋の姉の子供)が同医学部歯科口腔外科に入局した(昭和13年4月～15年9月在局)。そこで江崎敏男を通して作詞を叔父である北原白秋に依頼した。当時の問田亮次初代教授はこの件に関して余り興味がなかったが、加藤素六助教授(のちの歯科口腔外科第2代教授)が音頭をとり、村上中里先生(昭和8年4月～昭和35年3月在局)と中島方衛先生(昭和6年～昭和18年9月在局)に実際の交渉を指示した。この時、北原白秋には教室の歴史に関する資料などを手渡した。なお作曲家の山田耕筰には北原白秋から依頼をしてもらった(故 村上中里氏談、九州大学歯学部口腔外科学第一講座 白土雄司助教授口述筆記)。なお、この教室歌は現在でも歯学部口腔外科の行事の際に斉唱されている。

#### (2) 歌詞

九大医学部歯科口腔外科教室歌(昭和13年)<sup>2)</sup>

##### 1. 炬火(ひ)をかかげ

高く立つもの、  
今知らむ天の理法、  
人體に満ちて隠(こも)るを。  
醫はこれ玄玄、すなはち実学、  
窮(きわ)めて臻(いた)らば済生成すべし。

九大、九大、  
世界のその名と  
輝けこの歯科、この歯科<sup>※8</sup>  
見よ我が教室、新人群れたり。  
口腔外科、口腔外科、  
口腔外科、口腔外科、フレー。

##### 2. 玄海の

波を聴くもの、  
また識(し)らむ、風の神秘  
常住(じょうぢゅう)の息(いき)に通う  
を。

口腔すなはち命の関門、  
守りてやまずば大愛(たいあい)為(な)  
すべし。

九大、九大、  
世界のその名と  
輝けこの歯科、この歯科、  
見よ我が教室、新人群れたり。  
口腔外科、口腔外科、  
口腔外科、口腔外科、フレー。

##### 3. 英彦(えいげん)と

高く峙(た)つもの、  
げに知らむ真(しん)の光、  
人類の星は懸かるを、  
醫はこれ玄々、すなはち実学、  
国手の光栄仰ぎて採(と)るべし。

九大、九大、  
世界のその名と  
輝けこの歯科、この歯科、  
見よ我が教室、新人群れたり。  
口腔外科、口腔外科、  
口腔外科、口腔外科、フレー。

### 4) 福岡県歯科医師会会歌(瀧田卯夫作曲)について

#### (1) 経緯

詳細は不明である。

#### (2) 歌詞

「咲けよ我等が歯科医学」福岡県歯科医師會會歌(昭和4年2月2日完成)<sup>20)</sup>

1. 光かがやく新世紀、  
時は和(なご)めり、昭らかに<sup>※9</sup>。  
咲けよ、我等が歯科医学、  
にほへ、筑紫の青ぞらに。  
済(な)せよ、仁、  
つくせ、国手よ、つつましく。
2. ありし神代の白日別(しらひわけ)、  
国はいや古(ふ)る山河(やまかは)と。

<sup>※8</sup> この歯科：岩波書店刊 北原白秋全集(1987)<sup>5)</sup>、および北原白秋自筆歌詞によれば、繰り返さずに「この歯科」は1回のみであるが、九州大学医学部口腔外科学教室(現九州大学歯学部口腔外科)の譜面では「この歯科、この歯科」と繰り返している。

<sup>※9</sup> 明らかに：岩波書店刊 北原白秋全集31巻(1987年)<sup>2)</sup>では「明らかに」となっているが、北原白秋自筆(福岡県歯科医師會沿革史<sup>20)</sup>)では、「昭らかに」となっている。

咲けよ、我等が歯科医学、  
にほへ、筑紫のこの土に。

承けよ、道、  
まもれ、命をおごそかに。

3. 忍べ、国土の殉難史、  
父祖（ふそ）は起ちたり、ことごとく。  
咲けよ、我等が歯科医学、  
ひほへ、筑紫の野に丘に。  
憂へ、世を、  
ささげ、この身を美（うる）はしく。
4. 海の不知火、日の恵み、  
常に豊けし、うららかに。  
咲けよ、我等が歯科医学、  
にほへ、筑紫の礦脈（くわうみやく）に。  
保て、愛、  
つつめ、霞とあたたかく<sup>#10</sup>、  
（繰り返へし）  
光かがやく新世紀、  
時は和（なご）めり、昭らかに。  
咲けよ、我等が歯科医学、  
にほへ、筑紫の青ぞらに。  
濟（な）せよ、仁、  
つくせ、国手よ、つつましく。

#### 5) 東京鉄道病院の歌（山田耕筰作曲）について

##### (1) 経緯

日本国有鉄道の東京鉄道病院の歌「椎の木の歌」は、その完成までの過程で歯科医師の関与があった。当時の東京鉄道病院の阿部賚夫病院長が北原白秋と親交があったことから、作詞を依頼した。しかし当時、北原白秋は病氣療養中であった。そこで東京鉄道病院歯科に在籍していた橋本政一歯科医師（大正8年～昭和7年の13年間在籍）が福岡、柳河（現柳川）の出身で北原白秋と同郷であり、しかも北原白秋門下の歌人でもあり、さらに歌誌「多磨」の同人として北原白秋に師事していたため、北原白秋と阿部賚夫病院長の橋渡し役をした。作曲は北原白秋が山田耕筰に依頼した。歌詞ができると直ちに山田耕筰が作曲をして完成した。（中央鉄道病院史（1980年）<sup>23</sup>より）

なお日本国有鉄道、東京鉄道病院は後に日本国

有鉄道、中央鉄道病院となり、民営化後はJR東日本旅客鉄道株式会社、JR東京総合病院（東京都渋谷区代々木）と改称されている。

##### (2) 歌詞

「椎の木の歌」東京鉄道病院の歌（昭和13年5月）<sup>3,23</sup>

1. 大君（おおぎみ）の宮居の西、  
椎（しい）あり、雲は養ふ。  
仰げよ、この老樹（おいき）を。  
年ごとに若葉かがよひ  
よみがえるその歓喜（よろこび）。  
東京鉄道病院。  
日のこぼれここに拾へば、  
つつまし、よき士の香（か）、  
現身（うつしみ）よ人の命  
共に共にいつくしみ護らむ。
2. 富士見ゆる我等が空、  
椎あり、恒（つね）に馨（かぐわ）し。  
仰げよ、この常磐木（ときわぎ）、  
朝（あした）には表明るく、  
和（なご）頼むその夕影（ゆうかげ）、  
東京鉄道病院。  
照る月の零掬（しずくすく）へば  
匂いむ、よき葉と、  
現身（うつしみ）よ多（さわ）の命  
共に共にいとおしみ護らむ。

#### 6) 熊本医科大学予科校歌（山田耕筰作曲）について

##### (1) 経緯

不明である

##### (2) 歌詞

「山は大阿蘇」熊本醫科大學予科校歌（大正14年12月2日）<sup>4</sup>

1. 山は大阿蘇（おおあそ）、烟（けむり）は絶えず、  
河は白川、流れは尽きず。  
医もまた道なり、  
畏（かしこ）し、とこしへ。  
ラッショ、予科、  
ラッショ ラッショ、熊本、  
ラッショ ラッショ、ラッショ、我等。
2. 森の都は常磐に青く、  
草は九品（くほん）寺白露しげし。

<sup>#10</sup> あたたかく：岩波書店刊 北原白秋全集 31 卷（1987年）<sup>6</sup>によった。北原白秋自筆（福岡県歯科医師會沿革史<sup>20</sup>）では「あたたかに」となっている。

医はこれ済生  
うるほせ、とこしへ  
ラッショ、予科、  
ラッショ ラッショ、熊本  
ラッショ ラッショ ラッショ、我  
等。

3. メスを執りては度(つつし)みふかく、  
床に臨みて愁(うれ)ふる篤(あつ)し。

医はげに愛なり、  
窮(きわ)めよ、とこしへ。

ラッショ、予科、  
ラッショ ラッショ、熊本、  
ラッショ ラッショ ラッショ、我  
等。

4. 朝は夕(ゆふべ)はみ空を仰ぎ、  
愛(かな)し命を地に看着護る。

げにげに医は道、  
光れよ、とこしへ。

ラッショ、予科、  
ラッショ ラッショ、熊本、  
ラッショ ラッショ ラッショ、我  
等。

#### 7) 九州医学専門学校校歌(小松耕輔作曲)について

##### (1) 経緯

不明である。

##### (2) 歌詞

「近代の医学興れり」九州医学専門学校校歌  
(昭和5年9月6日)<sup>7)</sup>

1. 近代の医学興れり、  
我等承けたり、  
采(と)るべし、若き陽(ひ)、来れ、朝なり、  
未来の青空、ここに騰がれり。  
思へよ、この道、  
ただに愛なり、  
輝く雲なり、旗なり、風なり、  
国手の理想(りさう)は常に仁なり。  
九州の我が空、医専、我が校。

九州医専、九州医専、  
九州医専、フレー。

2. 近代の医学興れり、  
我等承けたり。

窮(きは)めよ、学理を、集へ、今なり、

東の翠巒(すいらん)、高く明かれり。  
思へよ、この道、  
ただに真なり、  
輝く土なり、木々なり、草なり、  
叡智の瞳は常に聖なり。  
高良(かうら)の我が山、医専、我が校。

九州医専、九州医専、  
九州医専、フレー。

3. 近代の医学興れり、  
我等承けたり、

潜(ひそ)めよ、心を、洗へ、世の塵、  
千歳の大河もやまず響けり

思へよ、この道、

ただに一(いつ)なり、

輝く水なり、鱗(ひれ)なり、翼(はね)  
なり、

治法(ぢほう)の触手は常に敏なり。

筑紫の我が河、医専、我が校。

九州医専、九州医専

九州医専、フレー。

4. 近代の医学興れり、  
我等承けたり。

見守れ、現身(うつしみ)、救へ、人なり、  
幽(かす)けき命も共に為(な)すあり。

思へよ、この道、

ただに愛なり、

輝く息なり、声なり、精なり。

国手の矜(ほこり)は常に仁なり。

九州の我が空、医専、我が校

九州医専、九州医専、

九州医専、フレー。

#### 8) 歯牙保健の歌(藤井清水作曲)について

##### (1) 経緯

昭和7年にライオン歯磨本舗、株式会社小林商店(現ライオン<sup>(株)</sup>)が口腔衛生思想普及の一方策として歌を作ることとした。作詞は北原白秋に依頼し、作曲を当時新進気鋭の作曲家であった藤井清水(きよみ)(1889~1944)<sup>11)</sup>に依頼した。この歌は当時人気テナー歌手であった藤原義江の独演会「オペラの夕」(株小林商店協賛)が東京市日比

<sup>11)</sup> 藤井清水(きよみ):明治22年~昭和19年、作曲家。山田耕筰が激賞した作曲家で、歌謡、童謡、民謡などを中心に歌劇、管弦楽など1,800曲を残している。歌詞は野口雨情、北原白秋らによるものが多い。

谷公会堂において開催された折りに、「歯牙保健の歌」と小林商店の懸賞応募作品当選曲「ライオン小夜曲」(飯田保子作歌)を藤原義江が肉声で披露した(「歯磨きの歴史」<sup>21)</sup>、「口腔衛生二十五年」<sup>22)</sup>より)。

## (2) 歌詞

歯牙保健の歌 (昭和7年)<sup>21,22)</sup>

### 1. 朝は子供に呼びかける, 呼びかける

みがけ, すずしい眞珠の歯  
ブラッシ ブラッシ ブラッシ  
そしてお早やうと駈けて行く  
風も草の葉 ソラ みがく  
みがこ, この歯を, 清い歯に。  
ブラッシ ブラッシ ブラッシ

### 2. 夜は子供に呼びかける, 呼びかける

みがけ, かがやく眞珠の歯  
ブラッシ ブラッシ ブラッシ  
そしておやすみ, すやすやと  
月も硝子を ソラ みがく  
みがこ, この歯を, 白い歯に  
ブラッシ ブラッシ ブラッシ

### 3. 聲は子供に呼びかける, 呼びかける

みがけ, 君等よ, 眞珠の歯  
ブラッシ ブラッシ ブラッシ  
そして笑へよ, すこやかに  
ふせげ齧歯を, ソラ みがけ  
みがこ, この歯を, 強い歯に  
ブラッシ ブラッシ ブラッシ

## 考 察

### 1) 歌詞について

東京歯科医学専門学校校歌, 大阪歯科医学専門学校校歌, 九州大学医学部歯科口腔外科教室歌, 福岡県歯科医師会会歌, 東京鉄道病院の歌, 熊本医科大学予科校歌, 九州医学専門学校校歌の中で, 作曲者が山田耕筰以外のものは福岡県歯科医師会会歌(瀧田卯夫作曲)と九州医学専門学校校歌(小松耕輔作曲)の2歌のみである。以下, 東京歯科医学専門学校校歌は東歯医専歌, 大阪歯科大学学歌は大歯医専歌, 九州大学医学部歯科口腔外科教室歌は九大口外歌, 福岡県歯科医師会会歌は福歯会歌, 東京鉄道病院の歌は鉄道病院歌, 熊本医科大学予科校歌は熊本医大歌, 九州医学専門学校校歌は九州医専歌と略す。

### 1) 歌詞の分析

歌詞の中で複数みられる語句を列記した。

国手: 東歯医専歌, 大歯医専歌, 九大口外歌,

福歯会歌, 鉄道病院歌, 九州医専歌

醫はこれ済生: 東歯医専歌, 熊本医大歌

醫はこれ…: 大歯医専歌, 九大口外歌

済・済生・済民: 東歯医専歌, 大歯医専歌,

九大口外歌, 福歯会歌

我等が: 東歯医専歌, 大歯医専歌, 九大口外歌, 福歯会歌

窮め・窮理: 東歯医専歌, 大歯医専歌, 九大口外歌, 熊本医大歌, 九州医専歌

治法: 東歯医専歌, 九州医専歌

仁: 東歯医専歌, 福歯会歌, 九州医専歌

徹: 東歯医専歌, 大歯医専歌

騰(あ)がれり: 東歯医専歌, 九州医専歌

輝け・かがやく: 大歯医専歌, 九大口外歌, 福歯会歌, 九州医専歌

馨: 大歯医専歌, 鉄道病院歌

現身(うつしみ): 鉄道病院歌, 九州医専歌

矜(ほこり), 矜れ: 大歯医専歌, 九州医専歌

叡智: 大歯医専歌, 九州医専歌

フレー: 東歯医専歌, 大歯医専歌, 九大口外歌, 九州医専歌

最も多く使用された語句は「国手」で, 6歌にみられた。また「窮め」または「窮理」は5歌に, 「済・済生・済民」, 「我等が」および「輝け・かがやく」はともに4歌にみられた。

「国手」とは国を医する手の意味から, 名医のことをさし, 医師の敬称である。また「醫はこれ…」が2歌にみられ, 「醫はこれ済生」も2歌にみられた。「済」も済生, 済民, 済として4校歌にみられた。「済」とはすくうという意味であるが, 単にすくうという意味だけでなく, 不足を補って平等にならすことで, 困っている者に当てがって, 水準の線までそろえてやるという意を含んでいる。「仁」は3歌に使用されている。「仁とは愛情を他に及ぼすこと, いつくしみ, なさげ, あわれみ, 思いやりの意である。これらの頻繁に使用されている語句の中に北原白秋の医療に対する考え方, すなわち医の社会性, 平等性, 国民への奉仕の精神の重要性, 愛の心の必要性などについて表現しているものといえる。なお「フレー」は4校の校歌にみられるが, この「フレー」は小学校,

中学校、高等学校、大学を問わず、北原白秋が作詞した校歌に頻用されている。

## 2) 北原白秋が組んだ作曲者について

北原白秋が作詞した校歌、社歌、団歌などの作曲者は山田耕筰がきわめて多く、渉獵しえた校歌は109曲であったが、これらのうち山田耕筰(明治19年～昭和40年)作曲が最も多く、94曲で、約86%を占めていた。一方、山田耕筰は校歌を356曲作曲しているが、組んだ作詞者は様々で、北原白秋が最も多く、全体の約26%を占めていた。ついで三木露風、野口雨情、西條八十、大木惇夫(北原白秋の高弟)の順であり、その他、土井晩翠、佐佐木信綱、相馬御風、室生犀星、藤浦 洸、佐藤春夫、富田碎花、児玉花外、サトウ・ハチロー、与謝野 寛、堀口大学など当時の著名な詩人の名が散見される。ちなみに山田耕筰が北原白秋とのコンビ以外で作曲した医学、歯学関係の歌には、岩手医学専門学校校歌(土井晩翠作詞)、大阪医科大学学風歌(北里 蘭作詞)、名古屋医科大学の歌(水野 宏、山口 正、上野智明共作、石田元李雄補訂)、東京女子医学専門学校校歌(三木露風補訂)、および東京都立病院の歌「花園のわれは園守」(山野井博史作詞、1943年)などがある。

北原白秋は校歌作詩にあたっては作曲を山田耕筰を指名することが多く、山田耕筰も校歌を依頼されたときは、作詞を北原白秋に依頼することが多かったようである。このことは東京歯科医学専門学校校旗校歌発表式<sup>13)</sup>での祝辞で、作曲者の山田耕筰は「前略、北原氏と私とは別居こそ致してゐますが夫婦見たいな仲で、つまり北原氏が父、私が母だ、北原氏から種を受けて私が生み出すといふ譯なのです。處が此頃北原氏から山田君、君は浮氣して困るよ、どうもいろんな種が入るぢやないかと言はれるんですが、場合によると言葉は悪いが強姦されるやうな事もあるんで、嫌や嫌や作曲することもある訳です。後略」と述べていることからもうかがえる。

## 3) 北原白秋、山田耕筰の校歌作詞、作曲料について

北原白秋の校歌作詞料に関する資料は以下の3つである。

1) 東京歯科医学専門学校校歌の作詞、作曲料に関する資料

東京歯科医学専門学校校旗校歌発表式に関する記述<sup>13)</sup>

によれば北原白秋への作詞に対する謝礼は200円、山田耕筰への作曲料は300円となっている。

2) 矢留尋常小学校校歌の作詞、作曲料に関する資料

昭和11年4月に北原白秋が福岡県山門郡沖端村の北原甚吉氏<sup>12)</sup>にあてた書簡<sup>9)</sup>

「啓上 其後は愈々御健祥の事と存じます。

実は下村多記氏時代に一寸話があり色々心がけておいた矢留校<sup>13)</sup>の校歌が、このほど感興がしきりに湧いて、応援歌までが出来て了ったわけです。それで君のところまで別封で発送しますゆゑお届け願上ます。二篇共私の作歌の分は母校へ献げる微意をお伝へくださるやうに。作曲はすでに山田耕筰氏に二篇共依頼しておきました。おほよそ出来たさうですから二三日うちにお届けします。就いては作曲料のことですが、校歌の方は、年来の提携者たる私に対する友誼として寄贈下さる由、応援歌の分は三分の一の百円でよろしいとのことです。本来から云へば山田氏は現代第一の音楽家であり、作曲料も一篇三百円となつてをり、つまり五百円の寄附となつてをるわけです。で、せめて応援歌の御礼の方でも学校側で捻出してもらひ度、その旨御配慮下さるやうに。なほ礼状と、何か記念品(柳河名産雉子ぐるまその他でもよし)を御送り下さるやうこれまた御伝え下さい。白秋作耕筰作曲の校歌や応援歌を一つの学校で二つも所有してゐるのは帝国大学の外にはありません。

中略

皆さんによろしく願ひます。 艸々

四月 尽

北原白秋

北原甚吉様

この書簡から昭和11年頃の山田耕筰の校歌作曲料は300円であったことが推察できる。

3) 九州大学医学部歯科口腔外科学教室歌の作詞料、作曲料に関する資料

北原白秋への作詞料および山田耕筰への作曲料は、当時歯科口腔外科学教室の医局長であった故村上里中氏談(白土雄二、九州大学歯学部口腔外科学第一講座助教授口述筆記)。「当時(昭和13年頃)の医局には経済的余裕がなかったため、北原

<sup>12)</sup> 北原甚吉：柳河(現柳川)における北原白秋の遠縁の人。

<sup>13)</sup> 矢留校：北原白秋の母校、矢留高等尋常小学校(柳河)



白秋には作詞料を安くしてもらえないかと頼んだところ快く引き受け納得してくれた。そこで医局として博多織座布団6枚をさしあげた。しかし北原白秋から山田耕筰へは作曲料として最低限の現金を支払うように云われ、北原白秋と相談の上、当時のお金で50円を手渡した。これは当時の助手の一カ月分の給料の額に相当した。」

ちなみに昭和2年頃の物価は、銀行員の初任給月額70円、公務員初任給月額(高等官)は75円、旧制中学授業料(年額)は55円、金は1円37銭/g(平成11年3月の金相場平均は1,150円/g)、東京大学授業料(年額)は120円、慶応義塾大学授業料(文科系、年額)は140円、日本酒1.8lは2円20銭、醤油1.8lは72銭であった<sup>23~28)</sup>。

## 結 語

北原白秋は詩人、歌人としてあまりにも高名であるが、校歌、団歌、社歌、市町村歌、会歌、頌歌、挽歌、民謡・音頭、軍歌などを多数作っていたことは余り知られていない。これらの中に校歌を中心とした歯学、医学の歌を見ることができたので、それらの歌詞を中心に若干の考察を行った。

1. 涉猟しえた歯学、歯科に関連する歌は東京歯科大学専門学校校歌「校旗は燦たり」、大阪歯科大学専門学校校歌、九州大学医学部歯科口腔外科学教室歌、および福岡県歯科医師会会歌「咲けよ我等が歯科医学」などであった。この他、小林商店の依頼により制作した「歯牙保健の歌」などであった。医学、医科に関連する歌には東京鉄道病院の歌「椎の木の歌」、熊本医科大学予科校歌「山は大阿蘇」、および九州医学専門学校校歌「近代の医学興れり」などであった。

2. 北原白秋作詞による歯学・医学関係の歌にみられる頻用語句は「醫」、「国手」、「窮」、「濟」、「仁」などであった。北原白秋の医学、医療に対する考え方、すなわち医の社会性、平等性、奉仕の精神の重要性および愛の心の必要性などを表現しているものと思われた。

## 謝 辞

稿を終えるにのぞみ、九州大学医学部歯科口腔外科学教室歌の由来について調査いただいた、九州大学歯学部口腔外科学第一講座、白土雄司助教授に感謝いたします。

## 文 献

- 1) 北原白秋：大阪歯科大学専門学校校歌，白秋全集 31 巻，岩波書店，東京，246-247 頁，1987 年。
- 2) 北原白秋：九大医学部歯科口腔外科教室歌，白秋全集 31 巻，岩波書店，東京，727-729 頁，1987 年。
- 3) 北原白秋：椎の木の歌，東京鉄道病院の歌，白秋全集 31 巻，岩波書店，東京，638-639 頁，1987 年。
- 4) 北原白秋：山は大阿蘇，熊本医科大学予科校歌，白秋全集 30 巻，岩波書店，東京，334-335 頁，1987 年。
- 5) 北原白秋：校旗は燦たり，東京歯科大学専門学校校歌，白秋全集 30 巻，岩波書店，東京，338-340 頁，1987 年。
- 6) 北原白秋：咲けよ我等が歯科医学，福岡県歯科医師会会歌，白秋全集 30 巻，岩波書店，東京，308-310 頁，1987 年。
- 7) 北原白秋：白秋全集 30 巻，岩波書店，東京，376-379 頁，1987 年。
- 8) 社団法人日本楽劇協会（編）：この道—山田耕筰伝記一，惠雅堂出版，東京，263-299 頁 1982 年。
- 9) 北原白秋：白秋全集別巻，岩波書店，東京，534 頁，1987 年。
- 10) 社団法人日本楽劇協会（編）：この道—山田耕筰伝記一，惠雅堂出版，東京，300-302 頁，1983 年。
- 11) 北原白秋展専門委員会（編）：近代日本の詩聖 北原白秋，財団法人北原白秋生家保存会・西日本新聞社，1985 年。
- 12) 遠山音楽財団附属図書館（編）：山田耕筰作品資料目録，遠山音楽財団附属図書館，東京，86-87 頁，1984 年。
- 13) 淵 眞吉：楽聖山田耕筰を囲む人びと，赤とんぼの会，東京，1996 年。
- 14) 歯界録事，東京歯科醫専校校旗校歌発表式，歯科学報 33(1)：52-62 頁，1928 年。
- 15) 東京歯科醫専校録事，東京歯科醫學専門學校校歌，歯科学報 33(1)：77 頁，1928 年。
- 16) 血脇守之助傳編集委員会（編）：血脇守之助傳，校旗は燦たり，学校法人東京歯科大学，東京，300-305 頁，1979 年。
- 17) 東京歯科大学百年史編集委員会（編）：東京歯科大学百年史，12 章 校旗は燦たり，学校法人東京歯科大学，東京，129-140 頁，1991 年。
- 18) 竹内光春（編）：東京歯科大学校歌楽譜・歌詞の正当性についての調査報告書（1992~1997），東京歯科大学，1-54 頁，1998 年。
- 19) 大阪歯科大学史（一）：校歌の制定と披露，学校法人大阪歯科大学創立 70 周年記念誌，193-194 頁，1981 年。
- 20) 福岡県歯科医師會會史編纂特別委員会（編）：福岡県歯科医師會沿革史，1 頁，1957 年。
- 21) 小林喜一（編）：齒磨の歴史，第 16 節 齒牙保健の歌作成，株式会社小林商店，東京，692-693 頁，1935 年。
- 22) 小林喜一（編）：口腔衛生二十五年，（六）齒牙保健の歌作成頒布，株式会社小林商店，東京，272-273 頁，1938 年。
- 23) 日本国有鉄道中央鉄道病院（編）：中央鉄道病院史，日本国有鉄道，東京，79-80 頁，1980 年。
- 24) 週刊朝日（編）：值段の昭和 大正明治風俗史，朝日新聞社，東京，1981 年。
- 25) 週刊朝日（編）：続值段の昭和 大正明治風俗史，朝日新聞社，東京，1981 年。

- 26) 週刊朝日(編)：続続値段の昭和大正明治風俗史，朝日新聞社，東京，1982年。  
 27) 週刊朝日(編)：完結値段の昭和大正明治風俗史，朝日新聞社，東京，1984年。  
 28) 週刊朝日(編)：新値段の昭和大正明治風俗史，朝日新聞社，東京，1990年。

#### 附) 北原白秋作詞による校歌一覧

- 青葉高等女学校校歌 (作曲者不詳)  
 昭和15年(1940年)  
 植柳尋常高等小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和11年(1936年)  
 永安小学校校歌 (中国) (山田耕筰作曲)  
 昭和8年(1933年)  
 大分県立第一高等女学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和15年(1940年)  
 大阪歯科医学専門学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和10年(1935年)  
 大谷中学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和3年(1928年)  
 尾去沢尋常高等小学校校歌 (作曲者不詳)  
 昭和9年(1934年)  
 尾島尋常高等小学校校歌 (町田嘉章作曲)  
 昭和8年(1933年)  
 笠間農学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和14年(1936年)  
 蒲田尋常高等小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和14年(1936年)  
 川崎尋常高等小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和8年(1933年)  
 関西学院大学校歌「空の翼」(山田耕筰作曲)  
 昭和8年(1933年)  
 北貫商業学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 岐阜薬学専門学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和8年(1933年)  
 九州医学専門学校校歌 (小松耕輔作曲)  
 昭和5年(1930年)  
 九州大学医学部歯科口腔外科教室歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和13年(1935年)  
 暁星中学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和10年(1935年)  
 暁星行進歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和10年(1935年)  
 清見瀉商業学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和5年(1930年)  
 釧路第四尋常高等小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和6年(1931年)  
 熊本医科大学予科校歌 (山田耕筰作曲)  
 大正14年(1925年)  
 栗田農学校校風振興歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和11年(1936年)  
 京城女子師範学校校歌「青空はかなたに」(山田耕筰作曲)  
 昭和16年(1941年)  
 恵泉女学園校歌 (山田耕筰作曲)  
 昭和6年(1931年)  
 研数専門学校校歌 (山田耕筰作曲)

- 昭和 18 年 (1943 年)  
鴻城中学校校歌 (作曲者不詳)
- 昭和 13 年 (1938 年)  
国分女学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 5 年 (1930 年)  
駒込中学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 3 年 (1928 年)  
駒沢大学校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 5 年 (1930 年)  
駒沢大学競技応援歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 5 年 (1930 年)  
佐賀高等学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 6 年 (1931 年)  
佐賀高等学校水泳部戦捷記念歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 6 年 (1931 年)  
汐入尋常小学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 6 年 (1931 年)  
上海西部日本国民学校校歌 (中国) (山田耕筰作曲)
- 昭和 15 年 (1940 年)  
湘南中学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 8 年 (1933 年)  
清水商業高等学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 作成年不詳  
城内尋常高等小学校校歌 (作曲者不詳)
- 昭和 11 年 (1936 年)  
成城学園小学部運動歌 (作曲者不詳)
- 昭和 7 年 (1932 年)  
成城高等女学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 7 年 (1932 年)  
清津公立高等女学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 11 年 (1936 年)  
世田ヶ谷桜小学校校歌 (草川 信作曲)
- 昭和 3 年 (1928 年)  
大正大学校歌・応援歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 5 年 (1930 年)  
大連朝日小学校校歌 (中国) (山田耕筰作曲)
- 昭和 10 年 (1935 年)  
大連第三中学校校歌 (中国) (山田耕筰作曲)
- 昭和 16 年 (1941 年)  
大連中学校校歌 (中国) (山田耕筰作曲)
- 昭和 11 年 (1936 年)  
台北第二商業学校校歌 (台湾) (山田耕筰作曲)
- 昭和 13 年 (1938 年)  
高尾小学校校歌 (弘田竜太郎作曲)
- 大正 14 年 (1925 年)  
高輪商業学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 5 年 (1930 年)  
高輪台尋常小学校校歌 (山田耕筰作曲)
- 昭和 13 年 (1938 年)  
玉川学園合唱歌 (細谷一郎作曲)
- 昭和 7 年 (1932 年)
- 天王寺高等女学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 6 年 (1931 年)
- 伝習館校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 11 年 (1936 年)
- 帝国美術学校校歌 (小松耕輔作曲)  
昭和 5 年 (1930 年)
- 東京高等工学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 16 年 (1941 年)
- 東京府立農蚕学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 4 年 (1929 年)
- 東京高等獣医学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 7 年 (1932 年)
- 東京高等商船学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 9 年 (1934 年)
- 東京歯科医学専門学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 2 年 (1927 年)
- 東京商科大学予科会歌 (山田耕筰作曲)  
作成年不詳
- 東京商科大学予科創立 75 周年記念の歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 9 年 (1934 年)
- 東京帝国大学運動会歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 7 年 (1932 年)
- 東京帝国大学運動会「ライトブリューの歌」(山田耕筰作曲)  
昭和 7 年 (1932 年)
- 東京文理科大学・東京高等師範学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 6 年 (1931 年)
- 東京薬学専門学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 3 年 (1928 年)
- 同志社大学学歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 10 年 (1935 年)
- 堂島尋常小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 9 年 (1934 年)
- 東洋英和女学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 9 年 (1934 年)
- 豊中中学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 10 年 (1935 年)
- 豊原第一尋常高等小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 11 年 (1936 年)
- 長崎県立女子師範学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 6 年 (1931 年)
- 中野高等女学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 8 年 (1933 年)
- 業平尋常小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 11 年 (1936 年)
- 南関尋常高等小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 13 年 (1938 年)
- 新潟県伊米ヶ崎尋常高等小学校校歌 (山田耕筰作曲)  
昭和 6 年 (1931 年)

新潟県千綱小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和6年（1931年）  
西天満小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和10年（1935年）  
日本大学競技応援歌（山田耕筰作曲）  
昭和5年（1930年）  
野田高等女学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和4年（1929年）  
延岡高等女学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和14年（1939年）  
花輪高等女学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和4年（1929年）  
春江南尋常小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和11年（1936年）  
姫路中学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和14年（1939年）  
平原小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和5年（1930年）  
福岡県小倉師範学校校歌（作曲者不詳）  
昭和15年（1940年）  
福岡高等学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和5年（1930年）  
宝仙学園園歌（山田耕筰作曲）  
作成年不詳  
豊山中学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和9年（1934年）  
北青公立職業学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和11年（1936年）  
干溝小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和6年（1931年）  
細島尋常高等小学校校歌（作曲者不詳）  
作成年不詳  
松原商務学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和9年（1934年）  
三崎実科高等女学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和10年（1937年）  
三崎尋常高等小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和10年（1937年）  
身延中学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和8年（1933年）

宮崎工業学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和10年（1937年）  
室蘭中学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和3年（1925年）  
門司中学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和13年（1938年）  
矢留尋常高等小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和11年（1936年）  
矢留尋常高等小学校応援歌（山田耕筰作曲）  
昭和11年（1936年）  
柳河高等女学校校風振興歌（山田耕筰作曲）  
昭和6年（1931年）  
柳河尋常高等小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和11年（1936年）  
柳河盲学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和11年（1936年）  
横須賀汐入尋常小学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和6年（1931年）  
横浜商業高等学校校端艇部の歌（山田耕筰作曲）  
昭和9年（1934年）  
米子高等女学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和4年（1929年）  
米子商蚕学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和6年（1931年）  
立正商業学校校歌（山田耕筰作曲）  
昭和4年（1929年）  
裡里農林学校校歌朝鮮（山田耕筰作曲）  
昭和11年（1936年）  
和光学園校歌（山田耕筰作曲）  
昭和9年（1934年）

著者への連絡先：齊藤 力  
〒260-8502 千葉県美浜区真砂1-2-2  
東京歯科大学口腔外科学第II講座  
Tel：043-270-3977（ダイヤルイン）  
Fax：043-270-3979